

会 社 概 要 平成25年9月30日現在

商 号	デリカフーズ株式会社
英文社名	DELICA FOODS CO., LTD.
設 立	平成 15 年 4 月 1 日
創 業	昭和 54 年 10 月 6 日
所在地	〒121-0073 東京都足立区六町四丁目 12 番 12 号
資本金	759,755 千円
従業員数（連結）	264 名（他、平均臨時雇用者数 1,134 名）

役 員	
代表取締役社長	小笠原 真清
専務取締役	杉 和也
常務取締役	大崎 善保
取締役会長	館本 勲武
常勤監査役	野村 五郎
監査役	山口 隆
監査役	田中 清隆

会計監査人	仰星監査法人
-------	--------

株 式 状 況 平成25年9月30日現在

発行済株式総数 6,242,000 株
株主総数 5,333 名

大株主	
館本 勲武	1,226,000 株
館本 篤志	1,019,200 株
デリカフーズ㈱（自己株式）	302,502 株
デリカフーズグループ	
従業員持株会	149,400 株
野村 五郎	114,400 株
小笠原 真清	106,000 株
岡本 高宏	100,000 株
杉 和也	77,400 株
岩崎 泰次	74,600 株
大崎 善保	64,200 株



個人・その他	90.01%
自己名義株式	0.02%
金融機関	0.08%
金融商品取引業者	0.21%
その他国内法人	0.49%
外国法人等	0.19%

当社は、平成25年4月1日付で普通株式1株につき、普通株式2株の株式分割を行っており、株式数は、分割後の株式数となっております。なお、当社株式の1単元は100株となっております。

株 主 メ モ

事業年度	4 月 1 日～翌年 3 月 31 日
期末配当金受領株主確定日	3 月 31 日
中間配当金受領株主確定日	9 月 30 日
定期株主総会	毎年 6 月
株主名簿管理人	三菱 UFJ 信託銀行株式会社 三菱 UFJ 信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10 番11号 TEL.0120-232-711（通話無料）
同連絡先	東京証券取引所（証券コード 3392） 電子公告により行う

上場証券取引所
公告の方法
公告掲載 URL <http://www.delica.co.jp/>
（ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

- 【ご注意】
1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構（証券会社等）で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 2. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



本印刷物には、制作時に消費する電力相当のグリーン電力を利用し、使用する紙量に相当する植林を実施することで、環境に配慮した冊子制作に取り組んでいます。マークは、株式会社ツバルの森が提供する太陽光発電によるグリーン電力証書および植林証明書の利用を証するものです。

〈グリーン電力証書とは〉
CO2を排出しない自然エネルギーにより発電されたグリーン電力の環境付加価値を、証書として取引できるようにしたものがグリーン電力証書です。グリーン電力証書を購入する企業が支払う費用は、自然エネルギーの発電事業者へ還元されることで、日本国内における自然エネルギーの普及促進、CO2排出削減に貢献することができます。



“Fresh & Speedy”
デリカフーズ株式会社
〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号



【お問い合わせ】
TEL 03(3858) 1037
FAX 03(5851) 1056
<http://www.delica.co.jp/>

デリカフーズ

IR最新情報はHPをご覧ください。



11

第11期 中間事業報告書
平成25年4月1日▶平成25年9月30日

INVESTOR RELATIONS
DELICA REPORT
[デリカレポート]



デリカフーズ株式会社
DELICA FOODS CO., LTD

東証 2 部 証券コード 3392

TOP MESSAGE

株主の
皆様へ

代表取締役社長

小笠原 真清



株主の皆様には平素より格別のご高配を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。本年4月8日より代表取締役社長に就任し、最初の中間事業報告をすることができました。これもひとえに、株主の皆様のご理解、ご支援あつてのことと重ねて心より御礼を申し上げます。

さて当第2四半期連結累計期間は、政府による積極的な経済政策や金融政策への期待感から景気回復の兆しが見られたものの、海外景気の減速や円安による原料・燃料価格の高騰により、引き続き不透明な経済情勢が続いてきました。

このような状況下、当社グループは青果物の機能性研究の成果を活かした提案型営業の推進や、食品安全の確保に対する取り組みが多くのお客様より高い評価をいただき、新規顧客の獲得および既存取引先からの

受注が順調に推移いたしました。また、7月に竣工した東京第二FSセンターも売上高増加に貢献いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は13,050百万円（前年同四半期比5.9%増）となりましたが、新工場稼働による人件費や消耗品費など立ち上げ費用の発生や減価償却費の増加により、営業利益313百万円（同19.3%減）、経常利益308百万円（同18.5%減）、四半期純利益178百万円（同22.3%減）となりました。

今後は当社グループの強みを活かした営業活動とさらなる原価低減により、業績の回復と企業価値の向上に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

業績の概況

当第2四半期 連結累計期間の業績

売上高 **13,050**百万円
(前年同四半期比5.9%増)

営業利益 **313**百万円
(前年同四半期比19.3%減)

経常利益 **308**百万円
(前年同四半期比18.5%減)

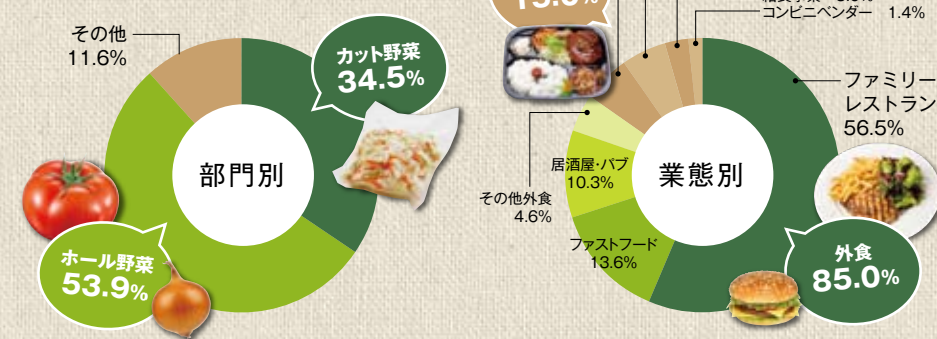
四半期純利益 **178**百万円
(前年同四半期比22.3%減)

1株当たり
四半期純利益 **30.11**円

第2四半期連結累計期間の売上高は過去最高に。

提案型営業の強化や、食品安全への取り組みが評価されたことなどにより、売上高は第2四半期連結累計期間における過去最高額となりましたが、新工場立ち上げ費用の増大や天候不順による原料価格の高騰により営業利益、経常利益ともに前年同四半期と比べて減少しております。

【販売構成比】



カット野菜とは、開封してすぐに食べられる状態にしてあるパッケージ野菜で、外食産業から支持されています。それに対し加工しない野菜そのものをホール野菜と呼んでいます。アイテム数も多く、多様なニーズにお応えできます。

外食・中食と大きく2つの業態に分かれており、全体の8割以上が、外食産業向けの売上となっております。その中でもファミリーレストラン向けの売上が最も多く、次いでファストフード向けとなっております。

取締役のご紹介



すぎ かずや
杉 和也

デリカフーズ株式会社
専務取締役
大阪デリカフーズ株式会社
代表取締役社長



おおさき よしやす
大崎 善保

デリカフーズ株式会社
常務取締役
東京デリカフーズ株式会社
代表取締役社長



たちもと いさたけ
館本 勲武

デリカフーズ株式会社
取締役会長

“健康と野菜の情報発信基地” ベジマルシェが贈る

心も体も健康に！ 野菜の機能性を知ろう

美味しい野菜にはチカラがある。旬の野菜はカラダによい！

当社は「食で健康を創る」をテーマに、青果物の評価基準を「形から中身に変える」ため野菜の研究を進めてきました。20,000検体を超える分析の結果から導き出されたのは「美味しい野菜はカラダによい」、そして「野菜の価値は外観ではなく旬のチカラ」ということでした。

これまで「大きさ」「色・艶」「傷の有無」で決められてきた値段を、「野菜の持つ旬のチカラ」で評価し決めていく。ベジマルシェは、そんな新しい野菜の販売方法を取り入れ、野菜の機能性を「抗酸化力」「免疫力」「解毒力」という3つに分け、その季節ごとに最も力がある野菜を販売しています。

野菜の力を3つに分類

抗酸化系野菜

老化や生活習慣病の元になる活性酸素を消す働きを持ち、色の濃い野菜や果物にぎっしりと含まれています。



トマト



パプリカ



ほうれん草

免疫系野菜

ウイルスなどから身を守る力を持っており、色の淡い野菜を中心に、ネバネバした野菜に多く含まれています。



ジャガイモ



レタス



バナナ

解毒系野菜

知らず知らずのうちに体にたまった不要な物を外に出す力を持ち、西洋・東洋のハーブや香辛系野菜に含まれます。



にんにく



ねぎ



しょうが

株主優待制度のお知らせ

ベジマルシェセレクト！
こだわり野菜&果物の詰め合わせ

株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式の投資対象としての魅力を高め、多くの株主様に長期的に保有していただくことを目的とし、株主優待制度を導入いたしました。今後ともより一層、当社グループの事業へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

VegeMarché



季節ごとの機能性野菜の販売だけでなく、野菜と健康についてセミナーを実施するなど幅広く活動しています。詳しくはWEBサイトをご覧ください。

【ベジマルシェ】

☎ 03-6277-6474

東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル2F

☎ 11:00~19:30 (土~19:00) 定休日(日・祝)

<http://www.vege-marche.jp/>



NEWS/ マスコミも「機能性野菜」に注目。

ワールドビジネスサテライト(2013年9月16日)「機能性を変える日本農業」でベジマルシェが登場。機能性野菜の取り組みが上げられました。他にもいろいろなメディアでベジマルシェの取り組みが紹介されています。



野菜と健康のショールーム
ベジマルシェへ
ぜひお越しください

市野 真理子さん



「生産者」と「実需者」をつなぎ、循環型社会に貢献 ひと目で納得！デリカフーズの事業

デリカフーズは、野菜の仕入・加工・物流をワンストップで担う商社として幅広く事業を展開しています。「日本の農業の発展」と「国民の健康増進」を目標に、活動しています。また、「生産者」と「実需者」をつなぐだけでなく、野菜を通じた循環型社会の実現に貢献してまいります。

野菜の生産者

全国各地の契約農家を中心に、新鮮で高品質な野菜を定期的に仕入れます。

食品リサイクル推進

カット野菜のくずを堆肥に変換する取り組みを、グループで推進しています。できた堆肥は、再び野菜作りに役立っています。

デリカフーズグループ

持株会社 デリカフーズ株式会社	〔東京都足立区〕
東京デリカフーズ(株)	〔東京都足立区〕
名古屋デリカフーズ(株)	〔愛知県名古屋市〕
大阪デリカフーズ(株)	〔大阪府茨木市〕
(株)メディカル青果物研究所	〔福島県伊達市〕
デザイナーフーズ(株)	〔愛知県名古屋市〕

デリカフーズ

「業務用の八百屋」をコンセプトに、24時間365日体制でお客様をサポート。Fresh & Speedyをキャッチフレーズに新鮮でおいしい野菜の流通を追求しています。



食の提供者

ファミリーレストラン・居酒屋・ファストフードなどの「外食」、コンビニエンス・惣菜・お弁当などの「中食」、社員食堂などがお客様。野菜の生理に合わせたチルド配送網で全国1万店舗に様々な野菜をお届けしています。



東京デリカフーズ株式会社
新工場「第二FSセンター」

最新鋭のハードとソフトを融合させた新工場として、 青果物流通の改革拠点「第二FSセンター」が竣工。

首都圏エリアにおける青果物流通拠点の増床と生産能力の増強を目的として、平成25年7月3日、東京都足立区に「第二FSセンター」が竣工しました。1Fの出荷センターは年商約25億円、2Fのカット工場は年商約15億円と、トータル約40億円の生産能力を保有しており、第一FSセンターと合計で年商約100億円規模の生産能力を実現しました。

カットレタス自動化ラインなど工場全体の温度帯を完全1～4℃とし、野菜の鮮度維持をさらに追及。高性能のオートソーターを増設するなど、効率化を実現しました。また、災害時の非常電源を確保する太陽光発電システムや、野菜残渣を堆肥化するリサイクル設備を導入するなど、環境にやさしい流通拠点として注目を集めています。



PICK UP



葉物野菜はカット・目視を経て、念入りに洗浄と冷却を行います。



コンピュータースケールを導入し、より細かなオーダーが可能になりました。

株式会社メディカル青果物研究所
植物工場計画

福島県伊達市において、 人工光による植物工場計画が始動。

ドームハウスと人工光でレタスなど葉物野菜を栽培する植物工場を、福島県伊達市に建設するプロジェクトがスタートしました。産学連携での実証事業では、デリカフーズグループのメディカル青果物研究所が流通や経営管理を担当します。その後、本格的に操業する計画となっています。人工光型植物工場は日射量に左右されず、四季を通じて安定収益を上げられることが期待されており、原発事故の風評被害を受ける同地域で事業が展開されることも注目されています。

※完成イメージです



デリカフーズ株式会社
広報室

東京ビッグサイトにて 「日経IRフェア2013」に出展。

デリカフーズ株式会社では平成25年8月30日、東京ビッグサイトにて開催された「日経IRフェア2013」に出展しました。当日行われた会社説明会やミニセミナーには、数多くの個人投資家が訪れ、当社の事業や取り組みについて関心をのぞかせていました。



野菜の機能性をわかりやすく表現！ 当社代表が新たに著書を出版。



「おいしいものは体にいい」
A5判 120ページ フルカラー
定価 本体1,500円＋税

代表取締役社長の小笠原(丹羽)真清が「おいしいものは体にいい」を出版いたしました。抗酸化力など、野菜の機能性がよくわかる貴重なデータが満載。食ビジネスに携わる方々を中心に注目されています。



CSR活動のご紹介 東京デリカフーズ株式会社

カット野菜残渣の堆肥化でめざす循環型社会

東京FSセンターでは、毎日排出される野菜残渣の約3分の1を堆肥化する取り組みを実施しています。堆肥工場に運ばれた残渣は、微生物の力で分解・発酵され堆肥となります。できた堆肥は農家に供給され、新たな野菜作りに役立っています。また、第二FSセンターには新しい堆肥化装置が導入されたことにより、さらに多くの残渣の再生が可能になります。今後もデリカフーズグループでは、循環型社会への貢献を目指してまいります。

約2ヶ月半で
完成します。



竹箒の炭に
菌を着床させ、
機械に投入！





四半期連結貸借対照表（要旨）

単位：千円

科 目	第10期 前連結会計年度末 (平成25年3月31日)	第11期 当第2四半期連結累計期間 (平成25年9月30日)
■資産の部		
流動資産	5,343,356	5,952,627
固定資産 1	6,035,981	7,024,348
資産合計	11,379,338	12,976,975
■負債の部		
流動負債	3,810,158	3,616,745
固定負債 2	2,934,800	4,609,789
負債合計	6,744,958	8,226,535
■純資産の部		
株主資本	4,599,234	4,694,894
その他の包括利益累計額	30,867	48,287
新株予約権	4,278	7,258
純資産合計	4,634,379	4,750,440
負債純資産合計	11,379,338	12,976,975



四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位：千円

科 目	第10期 前第2四半期連結累計期間 自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	第11期 当第2四半期連結累計期間 自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	253,746	399,544
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 606,670	△ 1,019,796
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 24,938	1,348,764
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 544	648
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 378,407	729,161
現金及び現金同等物の期首残高	1,937,498	1,809,861
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,559,091	2,539,022



四半期連結損益計算書（要旨）

単位：千円

科 目	第10期 前第2四半期連結累計期間 自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	第11期 当第2四半期連結累計期間 自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日
売上高	12,317,646	13,050,248
売上原価	9,259,514	9,866,200
売上総利益	3,058,132	3,184,048
販売費及び一般管理費	2,669,293	2,870,362
営業利益	388,838	313,685
営業外収益	14,711	24,753
営業外費用	24,798	29,674
経常利益	378,751	308,763
特別利益	11,858	1,214
特別損失	6,291	8,063
税金等調整前四半期純利益	384,319	301,915
法人税、住民税及び事業税	154,230	123,101
四半期純利益	230,088	178,813
1株当たり四半期純利益	39.28	30.11

当社は平成25年4月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。そのため前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

決算数値のポイント



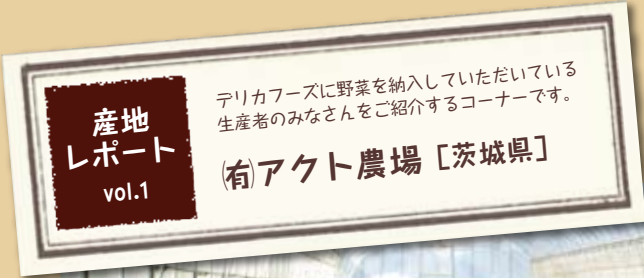
固定資産

固定資産は、前連結会計年度末に比べて約16%増加し、7,024百万円となりました。これは主として新工場の建設等により建物及び構築物が944百万円、機械装置及び運搬具が234百万円増加したことなどによります。



固定負債

固定負債は、前連結会計年度末に比べ、約57%増加し、4,609百万円となりました。これは主として新工場の建設費用の借入によるものです。



(有)アクト農場
茨城県東茨城郡茨城町城内420



1年間を通して安定供給できる野菜を栽培。
デリカフーズの要望で、栽培品種を増加しました。

約18ヘクタールの農地を38名体制で運営し、小松菜、春菊、ホウレンソウなど9種類の野菜をハウス栽培しています。昔は牛を飼っていましたが野菜の栽培に移行。デリカフーズとは長い付き合いになり、「ルッコラ・バジルの国内生産を増やしたい」という要望をいただき、栽培品種を増加。連作障害※が起こらないよう、同じ農地で異なる野菜を作り、1年間を通して安定的に供給しています。窒素肥料をなるべく使わず、安全なハウス栽培を目指し、日本の食に貢献したいと考えております。

※連作障害…同じ農地で、同じ野菜や同じ仲間の野菜を毎年継続して栽培する際、生育状況が悪くなったり、枯れたりする生育障害のこと。土の栄養成分の変化や、野菜の根からの分泌物などの影響と考えられている。



研究開発室 武井の
アクト農場の逸品
【小松菜】



有限会社アクト農場
代表
関 治男さん



関東地方で古くから親しまれた野菜で、旬は冬。おひたし、味噌汁、炒めものなど用途は幅広い。ビタミンA、鉄分、カルシウムの含有量が多く、貧血や風邪予防に効能があります。デリカフーズでは、アクト農場の小松菜を定期的に分析し、フィードバックしています。